

カラーフォーラムJAPAN 2006 の報告

実行委員長 犬井 正男

カラーフォーラムJAPAN 2006 が、例年と同じく工学院大学で昨年12月27-29日に開催された。前回は50回記念大会で、今回は新たな10年の始まりの年でもある。1956年に日本色彩学会、日本写真学会、日本光学会（応用物理学会光学懇話会）、照明学会の4学会で始めた合同講演会が、つぎのように発展してきて、現在のフォーラムになった。

1956～1983年 光学四学会連合講演会（28回）
1984～1993年 色彩工学コンファレンス（10回）
1994～2006年 カラーフォーラムJAPAN（13回）

前述の4学会が交替で幹事学会を務めており、今年度は日本色彩学会の担当であった。

講演数は、招待講演3件、一般講演17件、ポスター発表10件であった。一般講演のうち1件は発表を辞退されたため、その分を除いた件数である。各セッションと講演数などは以下の通りである。

11月28日（火）

1. 表示・表現 3件
2. 招待講演1、ディスプレイの広色域化の動向 谷添秀樹（三菱電機）
3. ポスター 10件
4. 色覚 3件
5. 招待講演2、数理×彩画 戸川隼人（元尚美学園大学）

11月29日（水）

6. 表色・測色 3件
7. 環境変化と色 2件（7-01は辞退）
8. 色再現（1） 3件
9. 色再現（2） 3件
10. 招待講演3

CIE国際照明委員会における色彩画像技術の標準化動向 会津昌夫（キヤノン）

詳細な講演名と発表者は、ニュースNo.244（2006年

年	会員	非会員	学生	合計
2001	133	19	26	178
2002	99	12	39	150
2003	141	14	33	188
2004	90	12	28	130
2005	131	17	36	184
2006	77	23	22	122

10月号)および下記ウェブに掲載されているプログラムをご覧ください。

http://www.ren-associates.com/ColorForumJ/program/home_jp.html

一般講演とポスター発表のなかからベストプレゼンテーション賞を投票で選んでおり、今年はずぎの2件が選ばれた。

28日 孔雀の羽の構造色の発色機構 ～集束イオンビーム切断による小羽枝の非破壊的断面の観察～、篠塚文昭・面谷 信（東海大学）

29日 CIECAM02 に於ける順応ファクタD の色相依存性、兼松えりか・国場英康（ニコン）

例年と同様に、フォーラムの前日にはチュートリアル講演が行われた。

1. 色彩管理のための表色系基礎 小林光夫（Kカラーラボラトリ/電気通信大学）
- 2-1. 画像のカラーマネジメント 洪 博哲（コニカミノルタテクノロジーセンター）
- 2-2. デザインのカラーマネジメントの近況 杉山久仁彦（グラフィックデザイナー/Design with Heart）
3. 色彩管理のための測色基礎 大住雅之（オフィス カラーサイエンス）

初めての試みで、セッション2は技術系とデザイン系の講演を並行して行い、聴講者がどちらかを選択できるようにした。しかし、デザイン系への出席者が少なく、偏ってしまった。今後は、どうするかが課題である。

参加者および論文集購入状況の推移は、次表のようになっており、隔年ごとに増減を繰り返している。今回は少なくなる年にあたっており、残念ながらその通りになってしまった。落ち込みは例年になく大きい。

今年度は、企業からの発表が少なく、大学等との共同研究を除いた企業単独の発表は1件しかなかった。その1件がベストプレゼンテーション賞を受賞したことは大変喜ばしいことであった。企業と大学等との共同研究は8件であったが、そのうちの4件は大学をリタイアされた方が設立した機関との共同研究であった。大学あるいは研究機関だけの発表件数は18件と最も多かった。参加者には企業の方も半数以上おられたようなので、今後、企業の方の発表件数が増え、盛大になっていくことを願っている。

（東京工芸大学）